

手外科シリーズ

5. ガングリオン



監修
一般社団法人
日本手外科学会広報委員会



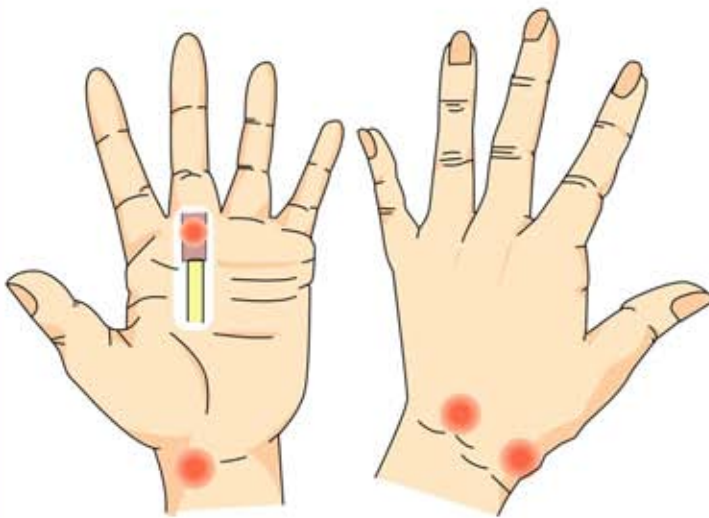
制作
エーザイ株式会社

5

ガングリオン

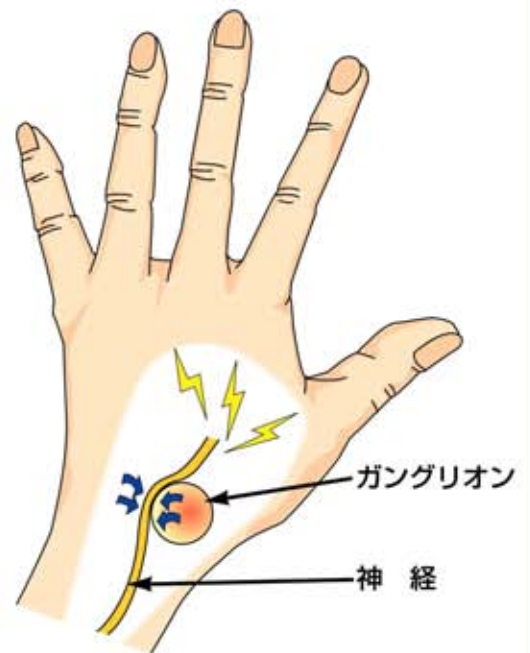
● 症状 ●

関節の周辺に米粒大からピンポン玉くらいまでの腫瘍ができます。手を使いすぎると腫瘍は大きくなる可能性があります。手首の甲にできる事が多く、軟らかいものから硬いものまであります。



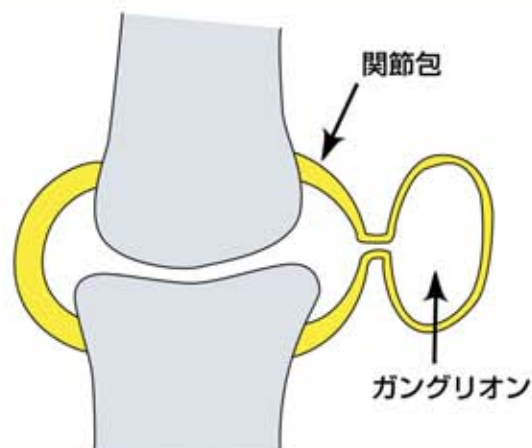
ガングリオンができやすいところ

不快感がありますが、多くの場合強い痛みはありません。ただし、神経が圧迫されると痛みが出ることもあります。



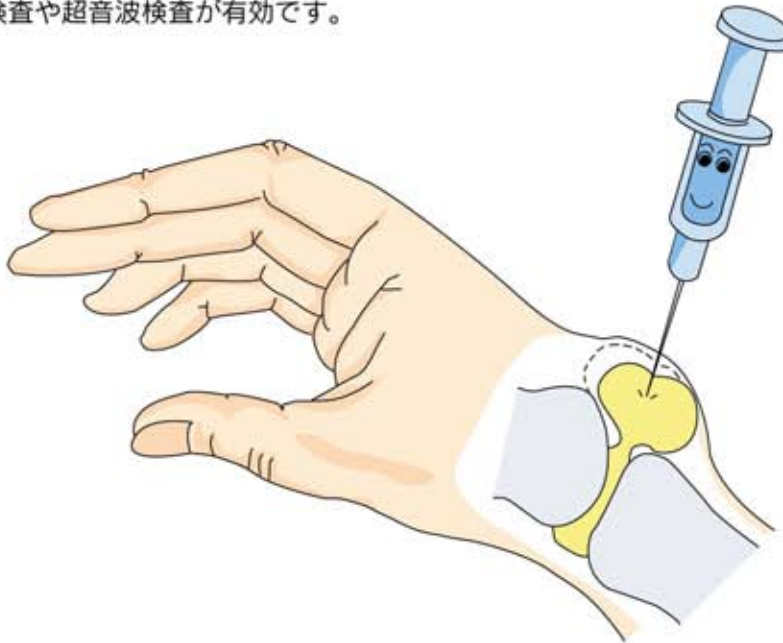
● 原因・病態 ●

関節包（関節をつつむふくろ）や腱鞘（腱をつつむさや）の変性により生じます。女性に多いですが、必ずしも手をよく使う人に多いとは限りません。



● 診断 ●

注射器で腫瘍を穿刺し、内容物がゼリー状ならガングリオンと診断します。
小さいものはMRI検査や超音波検査が有効です。



● 治療 ●

ガングリオンは放置しても心配はありません。大きくなるもの、痛みが強いもの、神経が圧迫される症状が出るものには治療が必要です。

注射器で内容物を吸引したり、繰り返し内容物が溜まる場合には手術により摘出することもあります。いずれの治療方法でも、再発する場合があります。

